

令和2年4月1日

日本産海岸生地衣類図鑑（2）. アナイボゴケ科

岩石海岸の潮間帯から飛沫帯にかけて地衣類が卓越し分布帯を形成しますが、これらの地衣類は海岸生地衣類と呼ばれます。このうち、日本産のアナイボゴケ科について検討し、*Verrucaria*（ウェルルカリア）アナイボゴケ属の10種と、*Hydropunctaria*（ヒドロプンクタリア）ゴマダラゴケ属の2種を認め、それぞれの種について詳しく報告しました。本研究の成果は2020年3月30日に日本地衣学会の学術誌「Lichenology」（ライケノロジー）にて公開されました。

研究の概要

海岸の岩上の表面は潮間帯から飛沫帯にかけて地衣類が卓越し、分布帯を形成することは欧米ではよく知られています。日本にも同じような地衣類が分布する現象は観察されますが、残念ながら生物学者でさえもほとんど知りません。そこで、当館職員の原田は、日本の海岸生地衣類の多様性を解明することを共同研究者とともに目指しました。その中で、種数も多く、海岸生地衣類の代表の一つと言えるアナイボゴケ科について、これまでの研究成果をまとめることで、*Verrucaria*（ウェルルカリア）アナイボゴケ属として10種、*Hydropunctaria*（ヒドロプンクタリア）ゴマダラゴケ属の2種が生育することを明らかにしました。

発表者名

原田 浩

本文の解説

海岸生地衣類は、海面からの高さに応じて分布帯を形成することが知られています。潮間帯を含む下部ではアナイボゴケ属などを主体とする黒色帯、その上には広義ダイダイゴケ属からなる橙色帯、更にその上は様々な分類群から形成される灰色帯（かいしょくたい）が形成されます。また日陰には、桃色を帯びるイソクチナワゴケや、褐色のヘリフトゴケなどからなる桃・褐色帯も成立します。ここまでは日本でも知られていたのですが、では、どんな種が生育しているかについて詳細な情報がありませんでした。そこで当館の原田を代表とする研究チームは、日本の海岸生地衣類の種多様性を明らかにし、その成果をデータベース化する共同研究を始めました。

海岸生地衣類には種数が多く様々な科・属が含まれ、一度にまとめるのは困難なため、グループごとにまとめていくことにしました。このうちアナイボゴケ科は、緑藻を共生藻とし、被子器（ひしき。子器がツボ状）を生じる仲間で、海岸では潮間帯を中心に分布します。この仲間はじつは、原田が1990年頃から継続的に研究してきたグループで、これまでに多数の論文で成果を公表してきました。そこで、その成果をベースに検討したところ、*Verrucaria*（ウェルルカリア）アナイボゴケ属として10種、*Hydropunctaria*（ヒドロプンクタリア）として2種を認め、それぞれの特徴について詳細に報告しました。

これらの地衣類が生育する場所は、とても特殊な環境であることから、生態学をはじめとする様々な分野での研究が期待されます。本研究の成果を含め、この研究グループによる成果が活用され、この分野での研究の発展が期待されます。

図1. 岩石海岸における地衣類の分布帯

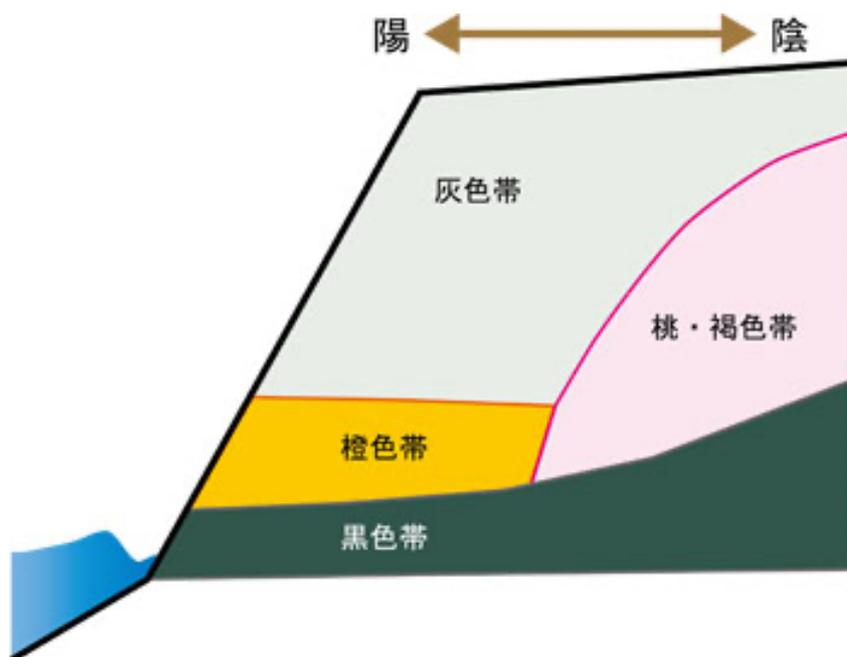
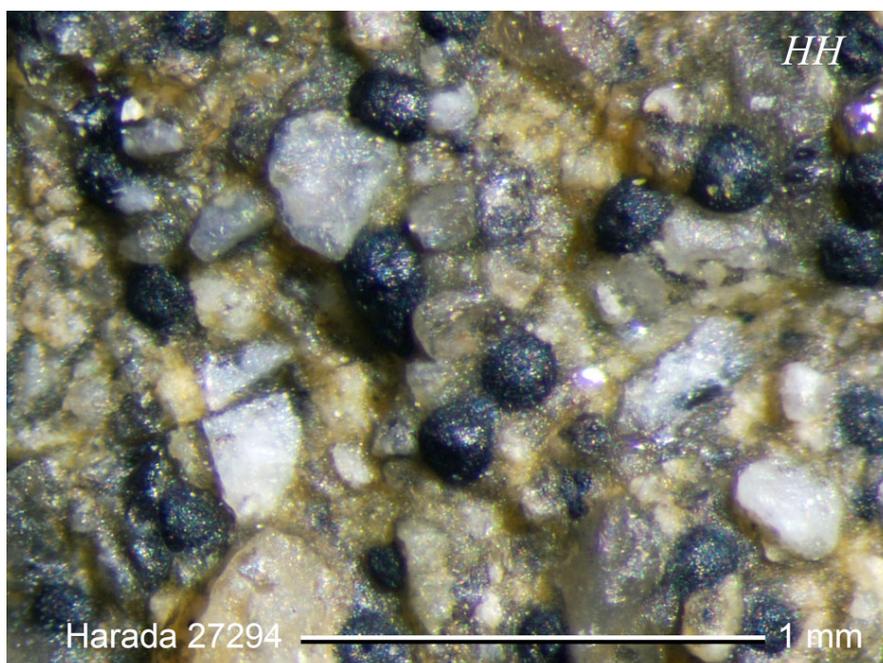


図2. アナイボゴケ科のウシオイボゴケ (*Verucaria halizoa* ウェルルカリア ハリゾア) (中央の黒っぽい部分)。左にはカメノテが見える。



図3. 海岸生のアナイボゴケ科の代表、ウシオイボゴケ



これらの画像は、デジタルミュージアムのコンテンツ「海岸生地衣類」に掲載しています。

https://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/special/chii_kaigan/kaigan-top.html

発表雑誌

雑誌名：「Lichenology」（ライケノロジー）、18 巻 2 号、79-97 ページ

論文タイトル：日本産海岸生地衣類図鑑（2）. アナイボゴケ科

著者：原田 浩

関連する事業・研究課題

普遍研究課題「地衣類の多様性に関する研究」・発酵研究所平成 30 年度（2018 年度）一般研究助成（助成番号 G-2018-1-015）

お問合せ先

千葉県立中央博物館 上席研究員 原田 浩

〒260-8682 千葉県千葉市中央区青葉町 955-2

TEL：043-265-3111

E-mail：harada@chiba-muse.or.jp